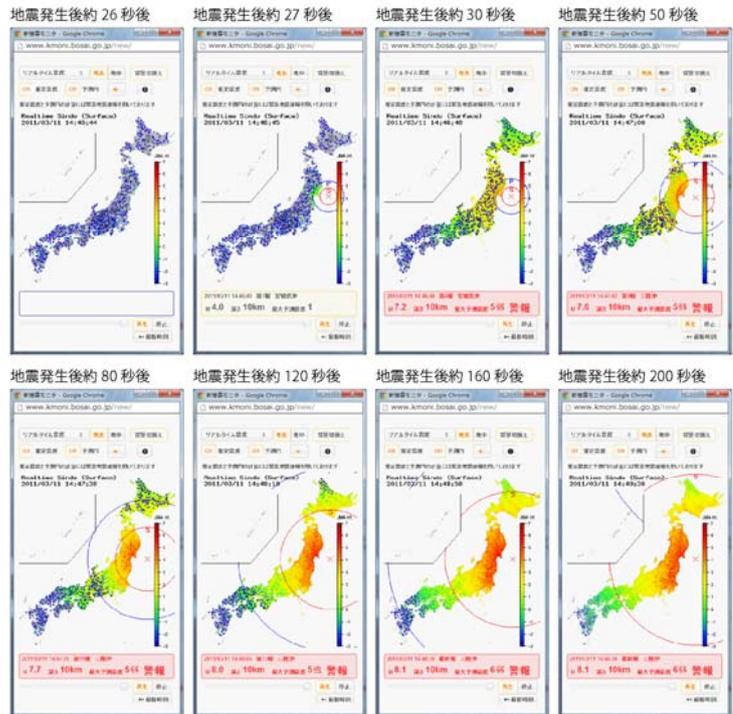


強震モニタリングシステム — 防災科学技術研究所の例 —

青井真 (防災科学技術研究所)

◎強震モニタ : <http://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin>

観測点から1秒毎にパケットで送られてくるリアルタイム震度などの強震動指標を、観測点毎に小さなシンボルで画像化した地図を1秒ないし2秒に一枚配信することで、動画のように日本列島の地震動を見せるシステム。地震が起こり気象庁の緊急地震速報が発報されたときには、その諸元(震源位置およびマグニチュード)から推定される震度分布、震源の位置(×印)、P波(青)およびS波(赤)の推定走時を表す2つの同心円が重ねて表示される(右図:東北地方太平洋沖地震の際の強震モニタの様子。観測データをもとに後日再現したもの)。



◎J-RISQ 地震速報 : <http://www.j-risq.bosai.go.jp>

震度遭遇(暴露)人口やその地域のハザード情報を地震発生直後にPDF形式でA4一葉にコンパクトにまとめて提供するサービス。地震ハザードステーション(J-SHIS)開発の際に構築された表層地盤増幅特性データや人口に関する情報などを、K-NET・KiK-net、自治体や気象庁の震度情報ネットワークの6000点以上の観測点からリアルタイムに得られる震度データ等の観測データを組み合わせることで、震度遭遇人口を推定している(下図:2011年4月7日に発生した宮城県沖の地震の「J-RISQ 地震速報」)。

